

## 船舶事故調査報告書

平成25年1月10日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成23年12月28日 島根県松江市稲積漁港 <sup>いなづみ</sup> の出港時刻～07時55分ごろの間）
発生場所	不明（稲積漁港～松江市多古鼻北西方沖の間）
事故調査の経過	平成24年1月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>たいこう</sup> 大幸丸、4.27トン SN3-12367（漁船登録番号）、個人所有 10.10m (Lr) × 2.30m × 0.81m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和54年3月21日
乗組員等に関する情報	船長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年7月22日 免許証交付日 平成21年11月27日 (平成27年8月23日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、魚の一本釣りを目的とし、平成23年12月28日いつも係留している稲積漁港を出港した。 本船と同時刻ごろに稲積漁港を出港した僚船は、漁場に向けて航行中、07時55分ごろ、多古鼻灯台から真方位329° 6.2海里（M）付近において、本船が無人で左旋回を続けているところを発見し、118番通報した。 通報を受けた海上保安部は、09時52分ごろ、現場に到着した巡視船の乗組員が、本船に移乗し、本船を停止させた。 船長は、巡視船艇、航空機及び地元の漁業協同組合に所属する僚船が捜索を続けたものの行方が分からなかったが、平成24年1月8日、本船が発見された場所から東方約108Mの京都府京丹後市の海岸に漂着しているところを発見された。 検案書によれば、船長の死因は不詳であった。

<p>気象・海象</p>	<p>本船の第一発見者である僚船船長の口述によれば、12月28日は、夜明け後しばらくの間、稲積漁港から松江市多古鼻北西方沖の海域には雨が降っていた。</p> <p>本船発見場所から南約9.5Mにある鹿島地域気象観測所の観測値によれば、平成23年12月28日の気象は次のような状況であった。</p> <p>06時00分 無風、気温 1.3℃  07時00分 風向 東、風速 1.8m/s、気温 1.9℃  08時00分 風向 東、風速 1.0m/s、気温 2.2℃  09時00分 風向 南西、風速 1.1m/s、気温 3.2℃</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、発見されたとき、救命胴衣、漁具、餌及び雨合羽などが船内に残されており、稲積漁港から松江市多古鼻北西方沖海域の海水温度は15～16℃であった。</p> <p>船長は、健康であった。</p> <p>船長は、発見されたときに救命胴衣は着用していなかった。</p> <p>船長は、常に携帯電話を所持していた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与  船体・機関等の関与  気象・海象の関与  判明した事項の解析</p>	<p>不明  不明  不明</p> <p>船長の死因は、不詳であった。</p> <p>本船は、12月28日稲積漁港を出港後、07時55分ごろ、多古鼻灯台から真方位329°6.2M付近において、無人で左旋回を続けているところを発見されたことから、出港時刻～07時55分ごろの間において、本船が稲積漁港を出港して航行中に船長が落水したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、稲積漁港を出港して航行中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命胴衣を着用すること。</li> </ul>